

飯塚市 1 人 1 台端末の利活用に係る計画

令和 7 年 3 月 飯塚市学校教育課

飯塚市 1 人 1 台端末の利活用に係る計画

～ G I G Aスクール構想第 2 期に向けて ～

○ はじめに

令和 2 年度に開始された GIGA スクール構想に基づき、本市では 1 人 1 台端末の整備が進み、新たな教育環境が整いつつあります。しかしながら、今後、AI や IoT などの技術革新が益々加速する中、子どもたちは、常に時代の変化に対応し、自ら考え、行動できる力を身につける必要があります。

本計画は、1 人 1 台端末を軸に、児童生徒が主体的に学習に取り組み、創造力を育むことを目指します。

本計画の実現により、学習の個別最適化、協働学習の推進、教員の指導力の向上など、教育の質の向上に大きく貢献できると考えます。

1 G I G Aスクール構想第 1 期を振り返って

(1) 機器・ネットワーク環境等

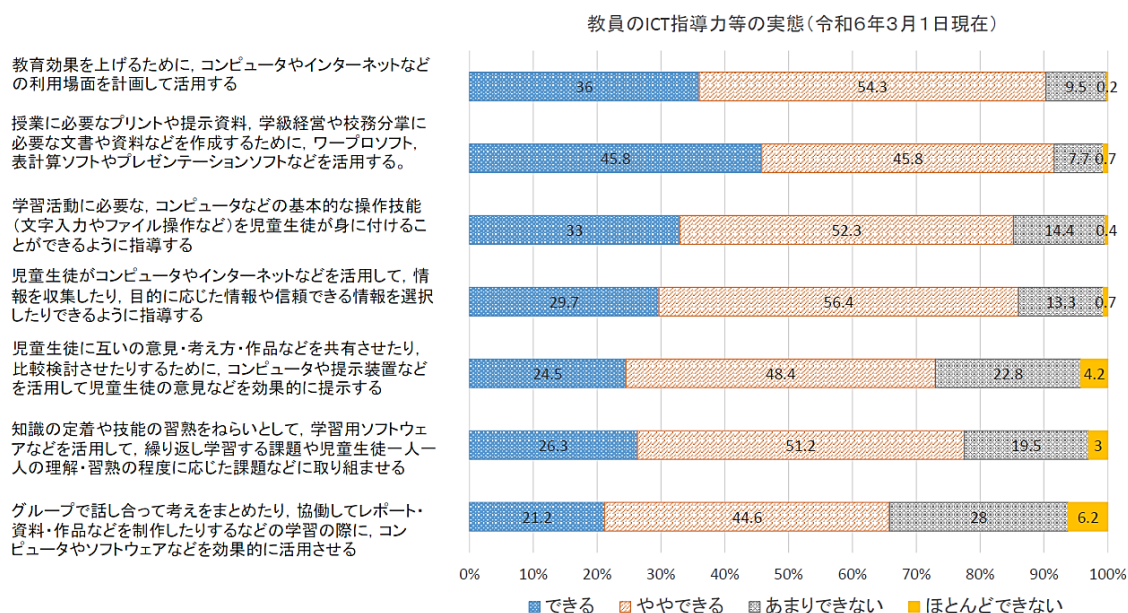
	機 器 等	状 況
1	児童生徒端末 (chromebook)	1 人 1 台配備済
2	指導者用端末 (Windows)	授業を担当する全教員配備済
3	充電保管庫	各学級配備済
4	電子黒板	普通教室全教室配備済 特別教室配備済 (一部を除く)
5	指導者用デジタル教科書	小中学校全教科配備済
6	学習者用デジタル教科書	小中学校外国語科配備済 (文部科学省デジタル教科書実証事業)
7	インターネット接続回線速度	1Gbps (※ベストエフォート)
8	校内無線 LAN 通信速度	職員室・教室・特別教室 (一部除く) 1Gbps (ベストエフォート)
9	教育情報セキュリティポリシー	配備済

※ベストエフォート…インターネット接続サービス形態のひとつで、「最大限の努力」という意味。「最大でこの値まで通信速度が出る」というサービスで、下限値保証はない。他の契約者と回線を共有するため、通信速度は常時変化し、時間帯によってはつながりにくくなることもある。

（２）教員の ICT スキル

【教員の ICT 指導力等の実態調査】

令和５年度「学校における教育の情報化の実態等に関する調査（令和５年２月実施）」各小中学校の回答から一部抜粋



教育効果を上げるために、85%を超える教員が、コンピュータやインターネットなどを活用してプリントや資料を作成したり、児童生徒に基本的な操作を指導したりすることが「できる」「ややできる」と回答している。このことから、教員の ICT 活用力、ICT 指導力が概ね身についており、ICT を活用した授業を行うことができていると考えられる。

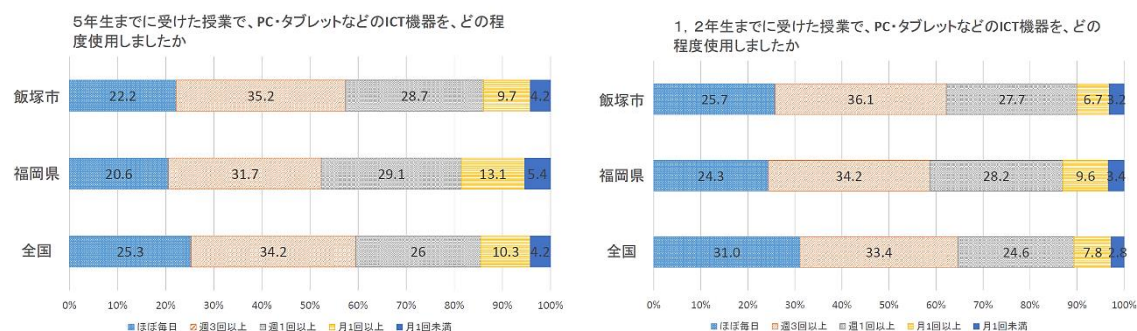
一方で、児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示すること。グループで話し合って考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させることに「あまりできない」「ほとんどできない」と回答している教員が約 30% 見られる。また、児童生徒一人一人の理解・習熟の程度に応じた課題などに取り組ませることを苦手とする教員も 20% 程度見られる。

(3) 児童生徒の ICT 活用状況

【令和6年度全国学力学習状況調査質問紙（令和6年4月実施）】

(小学校)

(中学校)

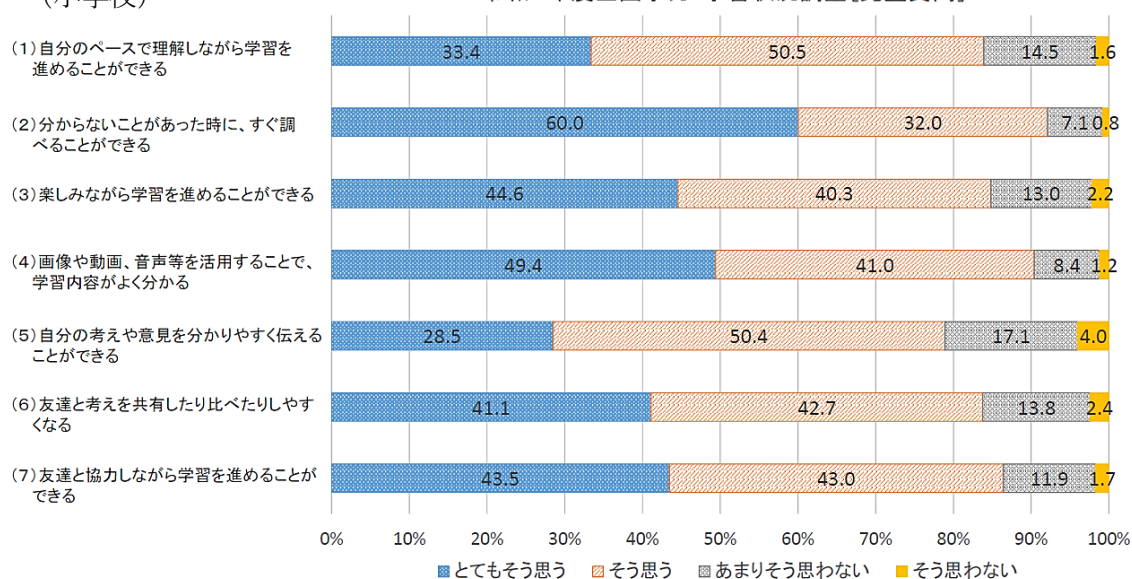


全国学力・学習状況調査の質問紙の結果から、小中学校ともほぼ全国平均と同程度、授業でICTを活用していることが分かる。

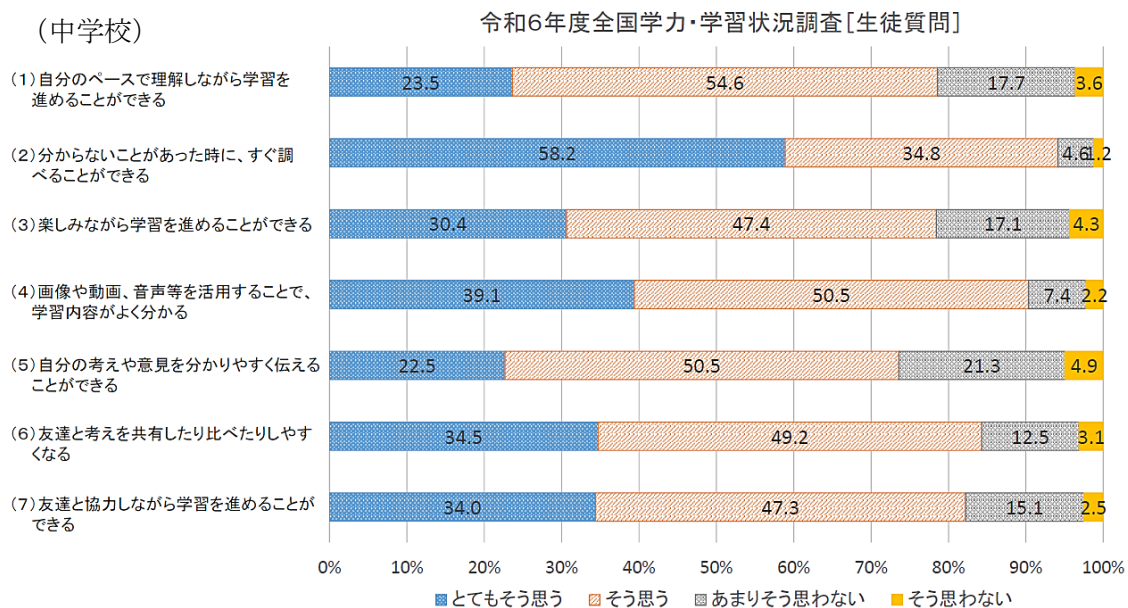
また、「前学年までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。」という問いの結果が以下のとおりである。

(小学校)

令和6年度全国学力・学習状況調査[児童質問]



どの項目も約80～90%の児童が「とてもそう思う」「そう思う」と回答しており、学習でICTを活用することを肯定的にとらえており、効果も感じているようである。



中学校の回答結果から、学習における ICT 活用を肯定的に捉え、手ごたえも感じていると考えられる。

(4) 成果と課題

【成果】

- 教員の ICT 活用力、ICT 指導力が向上した
- 児童生徒の ICT 活用力が向上した
- ICT を活用した授業改善が進んでいる

【課題】

- 児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示することが不十分
- グループで話し合っって考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用することが不十分
- 児童生徒一人一人の理解・習熟の程度に応じた課題等に取り組ませることが不十分

したがって、個別最適な学び、協働的な学びにおいての授業づくりを行い、その中で ICT 活用を行っていく必要がある。

2 GIGAスクール構想第2期で目指す子どもの姿

「本物」との出会いや体験を通して、自己や社会の「未来」を自らの力で創造していくことができる子どもの育成

知識を詰め込むのではなく、問題解決能力、創造性、協働性など、21世紀型スキルを総合的に育成し、新たな価値を創造する力を身につけるために具体的に以下の4点を目指す。

- 自ら課題を発見し、解決策を模索する子ども
- 友達と協働し、共創する力を持ち、問題を解決することができる子ども
- 論理的思考力と表現豊かな発信力をもつ子ども
- 変化に対応し、学び続ける意欲的な子ども

- 自ら課題を発見し、解決策を模索する子ども
 - ・インターネットで情報を集め、プログラミングでアイデアを具現化する
 - ・動画、音声、テキストなど、様々な情報源から学び、深い理解を目指す
 - ・フェイクニュースを見抜き、信頼できる情報源から情報を収集する能力を身につける
 - ・失敗を恐れず、新しいことに挑戦し、諦めずに解決策を探し、創造性を育む
- 友達と協働し、共創する力を持ち、問題を解決することができる子ども
 - ・Google Classroomやロイロノートなど、共同でプロジェクトを進めるツールを活用し、コミュニケーション能力を高める
 - ・ディスカッションを通して、異なる考えを持つ仲間と意見交換を行い、創造性を育む
 - ・オンライン会議システム等で、世界中の人達と交流し、グローバルな視野を養う
- 論理的思考力と表現力豊かな発信力をもつ子ども
 - ・スプレッドシートやグラフ作成ツールを使い、データを視覚化したり分析したりすることを通して論理的な思考で問題解決をする
 - ・スライド作成ツールや動画編集ツールを使い、効果的なプレゼンテーションを作成し、自分の考えを分かりやすく伝えるプレゼンテーション能力を育成する
 - ・プログラミングを活用し、創造性を活かし、アイデアを具現化することで表現力を高める
- 変化に対応し、学び続ける意欲的な子ども
 - ・最新のテクノロジーを積極的に学び、活用することで、未来社会を生き抜くための力を養う
 - ・AIドリルやタブレット端末等を活用し、自ら学び続ける姿勢を持たせ、自主学習を進める

3 今後の取組

(1) 個別最適化された学びの実現

- 一人ひとりの学習進度や興味関心に合わせた学習内容や学習ペースで、一人ひとりが最大限に伸びる学習環境を実現する
- 自ら課題を設定し、解決策を模索する過程で、探究心や創造性を育ませる探究的な学習を行う

(2) 協働的な学びの促進

グループワークやディスカッション等を通して、多様な考えをもつ仲間と協働することで、コミュニケーション能力と問題解決能力を育成する

- デジタル教科書、学習アプリの活用
- オンライン学習、遠隔授業の実施
- グループワーク、プレゼンテーションツールの活用
- AI を活用した学習支援

(3) STEAM 教育の推進

○ 探究的な学習過程

科学 (Science)、技術 (Technology)、工学 (Engineering)、数学 (Mathematics) に加え、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲で A を定義し、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習の推進

○ 教科横断的な学習カリキュラム・マネジメント

単なる知識の詰め込みではなく、児童生徒が自ら考え、学び、問題解決する力を育むことができるような単元構成の作成

(4) 外国語教育の推進

- オンライン英会話を取り入れた授業の実施
- ALT (外国人教師) の活用
- 小学校外国語専科による専門性の高い指導の充実
- 教員の指導力向上のための研修の充実

(5) 教員の指導力向上

ICT を効果的に活用した授業設計を行えるように以下のような研修を行う

○ ICT スキルアップ研修

- ・ オンデマンド型研修
- ・ 学力向上研修会
- ・ 情報教育担当者研修会
- ・ 校内研修の推進

○ 新しい教材・ツールの活用研修

- ・ C4th（統合型校務支援システム）の活用研修
- ・ AI ドリル Qubena の研修
- ・ 作成した教材データの共有

（６）情報モラル教育の推進

○ 生成 AI 時代の情報モラル教育

- ・ 情報の真偽を見極める力を高める
- ・ SNS 上の写真や動画、コンテンツ等の著作権や、AI による生成行為の倫理的な側面
- ・ SNS の活用やプライバシー保護、個人情報や機密情報の取り扱いに関する意識を高める

○ 多様な情報源へのアクセスと批判的思考

- ・ SNS や検索エンジンなど、様々な情報源から得られる情報を多角的に捉え、批判的に考える力を養う
- ・ 虚偽の情報を見抜くためのスキルを習得し、フェイクニュース拡散を防ぐ

○ オンラインコミュニケーションのルール

- ・ ネット上での言葉遣いやコミュニケーションのルールを指導する
- ・ 誹謗中傷や炎上を防ぐための知識と対応策を身につける

○ デジタルシチズンシップの育成

- ・ 自らが発信する情報が与える影響を考え、責任ある行動を促す
- ・ 異なる意見や価値観を持つ人々と共存し、多様性を尊重する態度を育む

○ 教職員の専門性向上

- ・ 教職員向けの情報モラル教育に関する研修を充実させ、指導力の向上を図る
- ・ 児童生徒の年齢や発達段階に合わせた教材を選択し、効果的な指導を行う

（７）学びの保障

- 希望する不登校児童生徒へ端末を活用した授業への参加・視聴の機会を提供する
- 希望する児童生徒への端末を活用した教育相談を実施する
- 外国人児童生徒に対する学習活動等の支援に端末を活用する
- 障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて端末を活用した支援を実施する

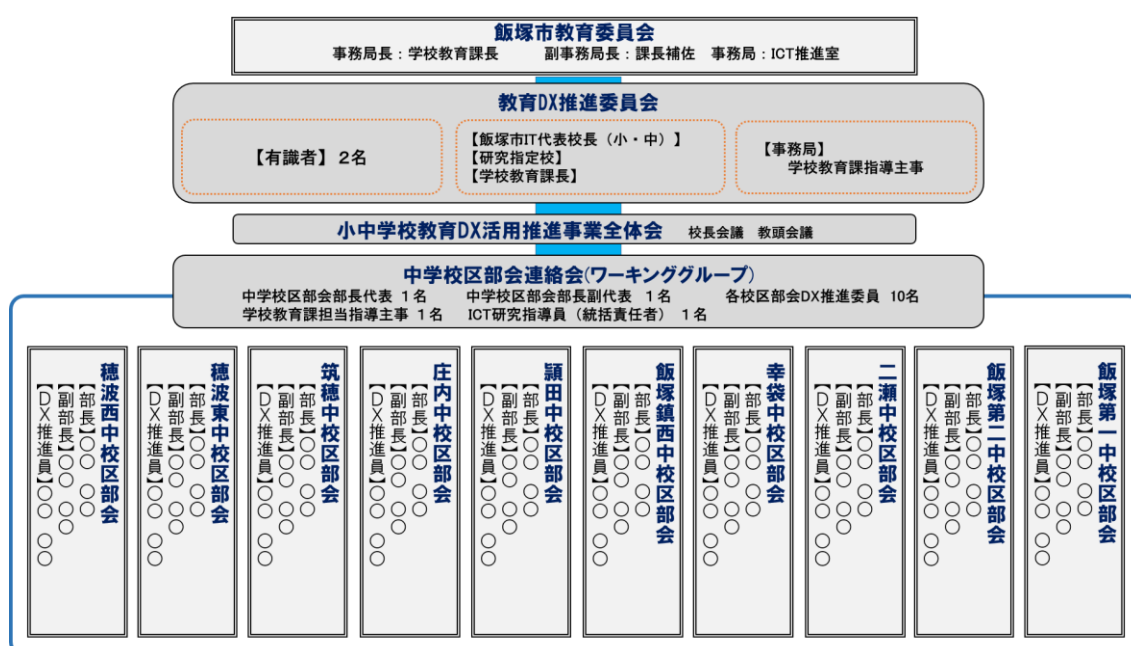
(8) 地域・大学・企業との連携

- 一過性の取り組みではなく、継続的な連携体制を構築し、学校、地域、大学、企業がそれぞれの強みを活かし、互いに学び合いながら発展していく関係を築く
- 地域企業の技術者や専門家と連携し、プログラミングやIoTに関する授業や研修会を行う
- 大学の学生をゲストティーチャーとして学校に招き、ICTを活用した授業支援やプログラミングの授業支援を行う

(9) 教育DXに係る環境整備

- 1人1台端末の整備
 - ・計画的な端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持する
 - ・1人1台端末を常時活用ができるよう、十分な予備機を整備する
- 校務のデジタル化
 - ・FAXでのやり取り・押印を原則廃止する
 - ・校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業を一掃する
 - ・クラウド環境を活用した校務DXを積極的に推進する
- 教育DX推進組織体制

① 教育DX推進事業組織図



② DX 推進事業組織について

ア 教育 DX 推進委員会

役 職	所 属	役 職
委 員 長	飯塚市 IT 代表校長	校長
副委員長	飯塚市 IT 代表校長	校長
委 員	有識者	九州工業大学情報工学部
		近畿大学産業理工学部
	飯塚市学校教育課	課長
事 務 局	飯塚市学校教育課	指導主事

※ 年間3回程度開催し、中学校区部会連絡会(ワーキンググループ)で協議・作成された本事業の推進にかかわる事項について、審議決定を行う。

※ 有識者として、九州工業大学情報工学研究院、近畿大学産業理工学部に依頼し、個別最適な学び・協働的な学びに関する授業の在り方(授業内容・方法)について指導助言をしていただき、児童生徒用端末を活用した授業の在り方の協議を実施する。

イ 中学校区部会連絡会(ワーキンググループ)

役 職	所 属	役 職
部 長	中学校区部会部長代表	校長
副部長	中学校区部会副部長代表	教頭
推進委員長	中学校区部会 DX 推進員代表	教諭・指導教諭・主幹教諭
推進委員 各中学校区から 1 名	中学校区部会 DX 推進員	教諭・指導教諭・主幹教諭
推進委員	ICT 研究指導員	統括責任者
事務局	飯塚市学校教育課	

※ 中学校区部会連絡会(ワーキンググループ)では、次に挙げることを任務とし、月に1回、原則オンラインで実施する。

- 教育 DX を推進するにあたっての今後の方向性について
- ICT の効果的な活用方法について
- 教科の学びを深め、教科の学びの本質に迫る端末の活用について
- 統合型校務支援システムの運用について
- 教育データの利活用の現状と方向性について